

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 城野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均正答率をやや下回っていた。「書くこと」「読むこと」の領域では、全国平均正答率を下回っていた。無回答率が0%で、問題に向かう姿勢が意欲的である。
	よくできた問題	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して文章を書き直す問題
	努力が必要な問題	問いに対して、理由や根拠となる個所を見つける問題
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」の領域では、全国平均正答率をやや下回っていた。「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域では、全国平均正答率を下回っていた。無回答率が0%で、問題に向かう姿勢が意欲的である。
	よくできた問題	示された場面を解釈し、計算で求めることができる理由を記述する問題
	努力が必要な問題	「整数」、「割合」、「比例」、「図形」に関する問題
理科	全体的な傾向や特徴など	「地球」を柱とする領域では、全国平均正答率を上回っていた。「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域では、全国平均正答率を下回っていた。無回答率が0%で、問題に向かう姿勢が意欲的である。
	よくできた問題	理科の学習で用いる器具の名称や正しい扱い方に関する問題
	努力が必要な問題	自分で発想した予想と実験結果をもとに、考察する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○就寝や起床時刻に関する項目など、「生活習慣」については、全国平均を上回った。しかし、スマートフォンでSNSや動画視聴、ゲームをする時間(1日当たりの平均時間)が2~4時間以上の割合が全国平均に比べて多い。</p> <p>○「学校での学習」の項目については、全国平均を上回り、主体的に学習に臨む様子がうかがえた。とくに、「課題に向け、自分で考え、自分から取り組んだ」の項目の肯定的な回答が多かった。</p> <p>○「学校生活」の項目については、全国平均を上回り、学校生活をよりよくしようと進んで行動する様子がうかがえた。とくに、「学級をよりよくするために、話し合い、解決方法を決める」や「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを取り組んでいる」の肯定的な回答の割合が多かった。学習や学校生活の課題や問題を話し合いで解決しようとする主体的・対話的で深い学びができていくことがわかる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・週5日、朝自習の時間に、認知機能強化トレーニング(コグトレ)を位置づけ、基礎学力の基盤づくりの推進。
- ・一単位時間の授業の中で、話し合う活動(ペア、グループ、全体)を取り入れる。
- ・一単位時間の授業の終末に、「ふり返り」の時間を設定し、「書く」活動を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・本校で作成した「学習・生活の手引き」を配布し、生活習慣や学習習慣について保護者に周知する。
- ・月初めの1週間を「家庭生活・学習がんばり週間」と位置付け、各家庭に家庭生活・学習がんばりカードを配布し、基本的な生活習慣の様子を保護者とともに確認して記述できるようにする。ほげんだよりを通して、月別努力目標を保護者に周知する。